

慶應義塾大学湘南藤沢学会 シンポジウムネットワーク基金 報告書

作成者：友田樹希

概要：

2013年3月3日、3月4日にラオスのヴィエンチャン都にて、Second Mekong Workshop on Health and Wealth が開催された。このワークショップにおいて、日本、ベトナム、ラオスを研究拠点とするエージェントオレンジ研究者によるプレゼンテーション及び、慶應義塾SFCとラオス国立大学の学生によるワークショップが行われた。

テーマ

Second Mekong Workshop on
Health and Wealth:
Agent Orange Research and Local
Initiatives

目的：

- (1) 日本、ベトナム、ラオスのエージェントオレンジ研究者間における協働の基盤を強化する。
- (2) 慶應義塾SFCとラオス国立大学にそれぞれ在籍する若手研究者と学生によるワークショップを行い、各々の研究のブラッシュアップと両大学の関係の強化を行う。



場所、日時：

March 3 and 4, 2013

Lang Xang Hotel, Vientiane, Laos PDR

参加者：

慶應義塾大学

梅垣理郎（総合政策学部教授、政策メディア研究科委員）

Vu Le Tao Chi（政策メディア研究科博士課程）

Doo Itthida（政策メディア研究科修士課程）

Luisa Isabel Hernández González(政策メディア研究科修士課程)

大垣香菜（総合政策学部4年）

友田樹希（総合政策学部4年）

園田圭吾（総合政策学部2年）

田中宏基（環境情報学部2年）

ラオス国立大学

教員と学部生20名

ハノイ医科大学

教授2名

その他

ビンディン省医科大学、ラオス厚生労働省より若干名。

プログラム：

On March 3:		
08:30-09:00	Receptions	
09:00-09:45	Agent Orange: An Overview	Professor Michio Umegaki, Faculty of Policy Management, Keio University.
10:00-11:00	The Consequence of Agent Orange in Human, Some Methods Supporting to Agent Orange Victims	Professor Tran Duc Phan, Hanoi Medical University
11:00-12:00	Study the Frequency And Nature of Genetic A Number of Birth Defects in Areas At Risk Exposure To Toxic Chemicals In War.	Professor Phan Thi Hoan, Hanoi Medical University
13:30-14:30	The Proportion of Spontaneous Abortion, Stillbirth And Birth Defects in Phu Cat, Binh Dinh, Vietnam	Dr. Truong Quang Dat, Binh Dinh Province Medical College
14:30-15:30	Step to Orange Substance Issue, Local Initiative	Dr. Khamsay, Child Department, Ministry of Health, Lao PDR.
15:30-16:30	Environment Assessment & Risk Communication in Agent Orange Hotspots in Vietnam	Dr. Nguyen Hung Minh, Head, Dioxin Laboratory, Vietnam Environment Administration.

On March 4:		
08:30-09:00	Receptions	
09:00-10:15	Agent Orange Research: Local Initiatives – Round-Table Discussion	
10:30-11:30	Students Presentation Round (1)	
13:30-16:00	Students Presentation Round (2)	
16:00-16:15	Closing Session	

ワークショップの成果と今後の課題

ワークショップ初日は、様々な分野からのエージェントオレンジ研究者によるプレゼンテーションを中心に進行した。医師、政治学者、政府の実務者によるプレゼンテーションと討論は質量ともに充実したもので、両大学の学生からの積極的な参加もあった。2日目は、1日目のレビューの後、学生が各自研究を持ち寄ってのワークショップとなった。

慶應義塾 SFC の学部生にとっても、海外学生との交流の機会は多くない。そこで、こうしたワークショップが定期的に行われることが期待される。このようなワークショップの開催が来年度からも続くよう、十分な反省を行わなければならない。